

私たちの町の文化財

■第6話 高坊古墳

上高橋のバス停から高坊山へと登る坂道の途中、住宅地の中にひっそりと古墳が残されているのをご存知でしょうか？一辺1m以上もある大きな板石を組んだ姿からは、古墳というよりも石造りの祠のような印象を受けるかもしれません。実は、古墳の盛土部分や遺体を納めるための部屋（横穴式石室）は既に失われてしまっており、石屋形と呼ばれる死者を安置する空間のみが残っている状態なのです。石屋形とは6世紀頃の九州、特に熊本の古墳に多く見られる構造で、横穴式石室内の最も奥に板石を立て、その上に石の屋根を架けた小さな覆屋のような空間のことを指します。他地域の古墳では死者を石棺のような密閉した空間に納めるのに対し、石屋形では開いた空間に安置するという点が大きく異なります。死者や葬送に対する概念にも当時地域差があったのかも知れません。このような石屋形は高坊古墳以外にも知られており、周辺では池上町の二軒小屋古墳や、装飾古墳で有名な千金甲古墳群内の2号墳・3号墳などがあります。これらの古墳の中でも、高坊古墳は石屋形を間近に見ることができる貴重なものです。現在、地元の方が丁寧に管理されており、先人を大切に思う人々の心を感じることができます。

熊本市文化振興課 後藤 愛弓氏

古墳もいろいろな形があるんだね〜
どんな人のお墓だったのかな〜

